

町立病院からのお知らせ

～創立70周年を迎えました～

和水町立病院は、平成30年3月に町民の皆さまの温かいご支援をもちまして創立70周年を迎えました。昭和23年3月1日に組合立江田町外三ヶ村共立病院として開設し、右表のとおり幾多の変遷を経て、地域医療の中核病院としての機能の充実に努めてまいりました。

当院は救急告知病院であり、軽症から中等症の急性期疾患を対象として治療をおこなっており、手術等が必要な重症者は、速やかに適切な急性期病院に転送できる様に連携体制をとっています。また、回復期・慢性期の役割を担う病院として、治療やリハビリ等を行っています。

和水町は高齢化が進んでおり、それに伴い転倒や骨粗鬆症による骨折、嚥下障害による肺炎、認知症などの疾患が増えています。高齢の夫婦二人暮らしや、一人暮らしの人も多く、病気が良くなっても自宅に退院することが難しくなる場合もよくあります。私たちは病気を治すだけでなく、治った後も自宅で生活できるよう可能な限りサポートさせていただく所存です。

町民の皆さまが安心して受診され、信頼を置いていただける病院を目指しています。

これからもよろしくお願い申し上げます。



和水町立病院診療科別医師勤務表

平成30年4月1日～

診療科		曜日	月	火	水	木	金			
内 科	午前	古 賀	古 賀	午前	佐 藤	古 賀	古 賀			
		佐 藤	志 垣			志 垣	佐 藤			
岩 永		岩 永	志 垣		岩 永	志 垣				
志 垣		佐 藤	岩 永		佐 藤	岩 永				
総 合	午後	古 賀 志 垣	午後	岩 永	午後	志 垣 佐 藤	午後	古 賀 岩 永	午後	佐 藤
小 児 科	午前	原 田	午前	原 田	午前	原 田	午前	熊本大学病院より	午前	原 田
	午後	(休診)	午後	(休診)	午後	(休診)	第5木曜日は休診 健 診	午後	(休診)	
整 形 外 科	外科で対応						午前	鈴 木	午前	玉名中央病院より (第1・3・5週)
							午後	外科で対応	午後	外科で対応
脳 外 科	(休診)								午前 み	中 原(月4回)

※学会等により勤務変更がある場合もあります。

問い合わせ先 和水町立病院 ☎0968・86・3105

歴史調査の楽しみ方

神尾城跡

7

大田幸博

(元・菊水町史編集委員会副委員長)

今

回は、神尾城跡の大手門と登城道の話題です(尾根末端に予想される搦手門は未調査で、後日の報告になります)。

〔神尾城跡の選地〕

大田黒地区にあって、十町川と和仁川の合流点に位置する独立の山(低山で、高城の標高は62・6m)に選地されています。

北側背後には、「通り谷」を挟んで、標高90mクラスの山々が広がっています。城跡地の山腹は、大方、急峻な要害の地ですが、南東隅の一角だけが緩傾斜地(道路との高低差は約7m)で、「高畑」と呼ばれる居住地です。道端に小型の五輪塔群が祀られています。

これに対して、南側は、字「小屋敷」地区の集落(北縁で、標高20m)があり、「高畑」を含めて、城跡の麓集落と考えられます。城は、明らかに南向きで、有事の際に、領主・一族・領民が立て籠もりました。

〔大手門〕

城の定義です。「城は、門からしか入れないので、城である。どこからでも入れたら、その地は、城でない」。神尾城跡では、地形的に見て、E地区の下位が大手門箇所に間違いありません。そこは、「高畑」地区から城跡への上り

口で、北側から南側へ下る小谷の南端・開口部にあたります。

今日、南西縁は、大田黒熊野座神社(江戸時代に創建)の長い石段が南西斜面を上がっています。それ以外は、集落から城跡へ上る現道(後世の道)が縁を巡っています。この南端の狭くなった開口部以外に、大手門の適切な場所は考えられません。

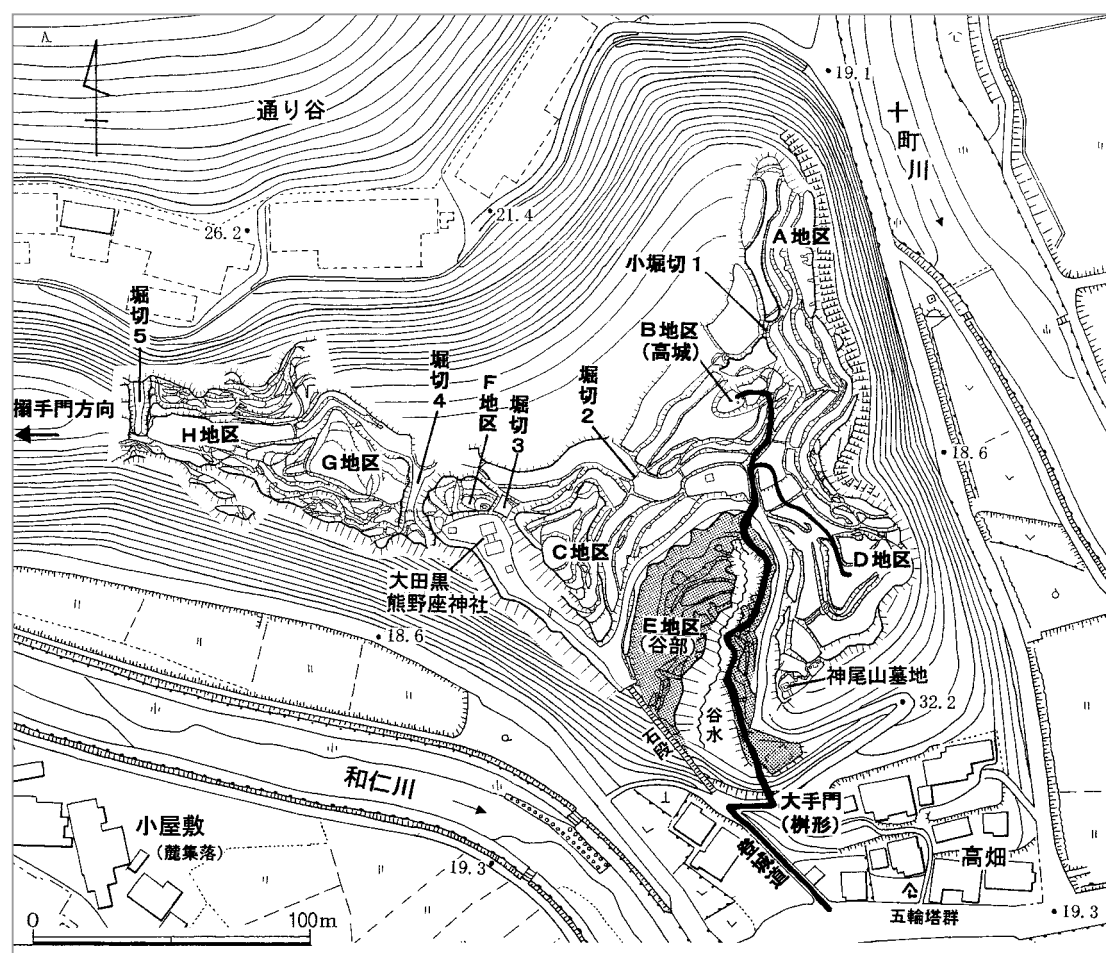
〔谷の内部〕

西側は、全体が緩斜面で、中程に、帯状地形が整地されています。そして、そこから、急傾斜地に変化して、谷底に吸収されています。

東側は、幅の狭い小帯状地形があり、直ぐに谷底に接します。注目すべき点は、最下部に本格的な帯状地形が残っている事です。整形の度合が高く、大手門下部の樹形道に繋がります。登城道の残り部分とみなされます。

〔谷底〕

降雨時は、若干の水が流れます。浸食された幅の狭い谷水地で、通路には不向きです。登城道は、谷部の東斜面に沿って造られていたと思われれます。



神尾城跡周辺地形図